

1 はじめに

北宇和支部では、昨年度、支部内全ての小・中学校に、新たなタブレット端末が整備された。併せて学習支援ソフトウェアやウェブ会議システム(Zoom、Meet、Webex)、教育用クラウドサービス(「ロイロノート」、「みんなの学習クラブ」、「e ライブラリアドバンス」)も導入された。今年度は、それらの本格的な運用が始まり、各校でICT教育の充実を目指した取組が成されている。

北宇和郡情報教育主任委員会では、これらを活用して授業改善を図るために、ソフトウェアやシステムの操作方法、それらの活用方法を研究・研修し、各校で職員に伝達してきた。今後も、同様の実践研究を継続していく。

2 実践事例

(1) 教育用クラウドサービス実技研修会

教育用クラウドサービスの操作方法を学び、それを授業・業務改善に生かしていくことを目的として、情報教育主任委員会の委員を対象に、実技研修会を開催した。

研修会では、「ロイロノート」や「Google アプリケーション」の操作方法を動画や実技を通して研修した。また、すでに教育実践で活用している教員を中心に、具体的な活用方法を共有することができた。

さらに、研修会後半には、町教育委員会の担当者を招き、今後のICT環境整備の動向の説明を受けた。

(2) 「Google アプリケーション」実技研修会およびタブレット端末運用基準策定会

7月に開催した実技研修会の中で、「Google アプリケーション」について研修したが、短時間であったため十分な研修には至らなかった。また、今年度本格的な運用が始まったタブレット端末の運用基準(セキュリティポリシー)を見直す必要があった。そこで「Google アプリケーション」について研修し、タブレット端末の運用基準を見直す会を開催した。

「Google アプリケーション」については、「連絡先」「Meet」「カレンダー」「Foams」「スプレッドシート」「ドライブ」の操作方法や活用方法を研修した。運用基準については、個人情報の取扱、ソフトウェアやアプリケーションの使用制限、自宅への持ち帰りの在り方等を策定することができた。



【実技研修の様子】

3 成果と課題

(1) 成果

ア タブレット端末の運用基準(セキュリティポリシー)を見直すことで、機器や情報を、安全に取り扱うことができている。

イ ソフトウェアやアプリケーションの操作方法や活用方法について研修することで、情報教育主任の知識・技能が底上げされ、新しいICT環境を生かしたICT教育の充実が進んでいる。

ウ 学校間の連携が強まり、ウェブ会議システムを活用した交流学习が進展した。

(2) 課題

ア ソフトウェアやアプリケーションについては、その可能性を十分に活用できていない。自己研修や実技研修会を通して、北宇和郡全体での知識・技能の向上を図らなければならない。

イ 既存のICT機器の劣化が目立ち、故障が発生することが多くなった。修理費が生じることによって、学校の会計を圧迫している。

